

第73回(2024年度)全国社会科教育学会 全国研究大会プログラム

大会テーマ

社会科教育研究における理論と実践の関係を問い直す



会期 2024年10月12日(土)~13日(日)

会場 鹿児島大学教育学部(郡元キャンパス)

第73回(2024年度)全国社会科教育学会 全国研究大会プログラム

大会テーマ：社会科教育研究における理論と実践の関係を問い直す

1. 主催 全国社会科教育学会
2. 後援 鹿児島県小学校教育研究会社会科部会, 鹿児島県中学校社会科教育研究会, 鹿児島県高等学校教育研究会地理歴史・公民部会, 日本教育大学協会社会科部門
3. 期日 2024年10月12日(土), 13日(日)
4. 場所 鹿児島大学教育学部(郡元キャンパス)
5. 日程

第1日 10月12日(土)

	8:30	9:00		12:10	12:20	13:20	13:30		16:30	17:30
受付	自由研究発表			移動	昼食	移動	シンポジウム ^{※1}		総会 ^{※2}	
					理事会					

第2日 10月13日(日)

	8:30	9:20	9:30	11:30	11:40	12:40	12:50	14:20	14:30	16:00
受付					昼食					研究委員会 地域連携 プロジェクト ^{※1}
ブック トーク カフェ	移動	課題研究	移動	若手の ランチ ミーティング	移動	自由研究発表	移動			国際委員会企画 ラウンドテーブル

※1: オンラインで同時無料公開します。※2: 昨年度研究奨励賞受賞者のスピーチがあります。

6. 参加費 一般 3,500円(当日支払いの場合4,000円)
大学院生 2,500円(当日支払いの場合3,000円)

7. 参加申し込み

- 事前参加申し込みは、終了しました。以降は、当日受付にて承ります。
- 大会の詳細については、大会 HP をご覧ください。
全国社会科教育学会の HP (<https://jerass.jp/>) からリンクしています。

8. 会場の施設

- 教室にはプロジェクターおよび HDMI の接続ケーブルがあります。
- PC やアダプター等は各自でご用意ください。
- プロジェクター投影のチェックは、分科会等の開始前にお済ませください。
- 各机にコンセントが設置されている教室は少ないため、PC等は事前に充電してください。
- 会場では eduroam をご利用いただけます。
- 駐車場をご利用いただけます。
時間帯は第 1 日が8:00~18:00、第 2 日が8:00~16:30です。

9. 発表資料

- 本大会では、オンライン掲載となっております。大会 HP をご覧ください。

10. シンポジウム

- シンポジウムの発表資料は、大会約1週間前に大会 HP に掲載の予定です。
また、シンポジウム配信用の接続情報も合わせてお知らせします。

10. 昼食

- 1日目は大学内の飲食店をご利用いただけます。詳細は大学生協の HP をご参照ください。
2日目は近隣の飲食店などをご利用ください。

12. その他

- 悪天候等の緊急のお知らせ・大会情報等は、大会 HP や全国社会科教育学会の HP にて
随時発信します。

13. 大会事務局

第73回全国社会科教育学会全国研究大会実行委員会 〒890-0065 鹿児島市郡元1丁目20番6号 鹿児島大学教育学部 担当:溝口和宏・福井駿・大野木俊文・岩崎圭祐 E-mail: jerass73kagoshima@gmail.com TEL: 099-285-7111 (大学代表)
--

会場案内

第1日：10月12日(土)

自由研究発表：9:00～12:10

- 第1分科会 103号室
- 第2分科会 202号室
- 第3分科会 203号室
- 第4分科会 204号室
- 第5分科会 305号室
- 第6分科会 講義室A
- 第7分科会 講義室B
- 第8分科会 講義室C

理事会：12:20～13:20 大会議室

シンポジウム：13:30～16:30 101号室

総会：16:30～17:30 101号室

第2日：10月13日(日)

課題研究：9:30～11:30

- 課題研究Ⅰ 103号室
- 課題研究Ⅱ 204号室
- 課題研究Ⅲ 305号室

ブックトークカフェ：8:30～9:20

- 第1会場 講義室B
- 第2会場 講義室C
- 第3会場 講義室4
- 第4会場 講義室5

若手のランチミーティング：11:40～12:40

※会場は申込者に別途、通知

自由研究発表：12:50～14:20

- 第9分科会 103号室
- 第10分科会 202号室
- 第11分科会 203号室
- 第12分科会 204号室
- 第13分科会 305号室
- 第14分科会 講義室B
- 第15分科会 講義室C

研究委員会地域連携プロジェクト：14:30～16:00 101号室

※詳細は、学会HPで通知

国際委員会企画ラウンドテーブル：14:30～16:00 103号室

※詳細は、学会HPで通知

- 受付・学会事務局 ラウンジ
- 会員控室 201号室
- 大会本部 302号室
- 書籍販売 102号室・ロビー

第1講義棟

3階

305号 第5・13分科会 課題研究Ⅲ	302号 大会本部					
	男子WC	女子WC				

2階

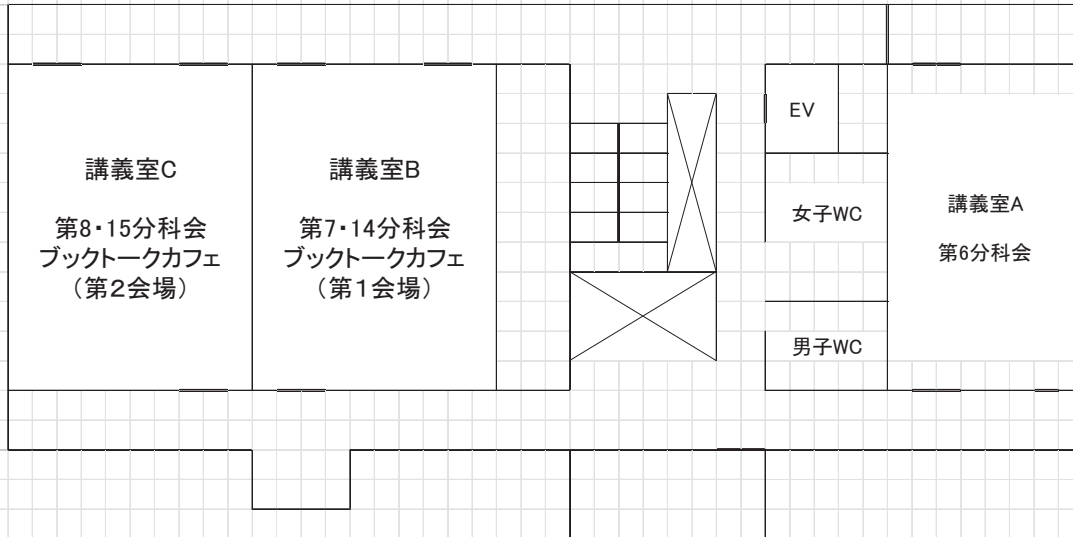
204号 第4・12分科会 課題研究Ⅱ	203号 第3・11分科会				202号 第2・10分科会	
	男子WC	女子WC			201号 会員控室	

1階

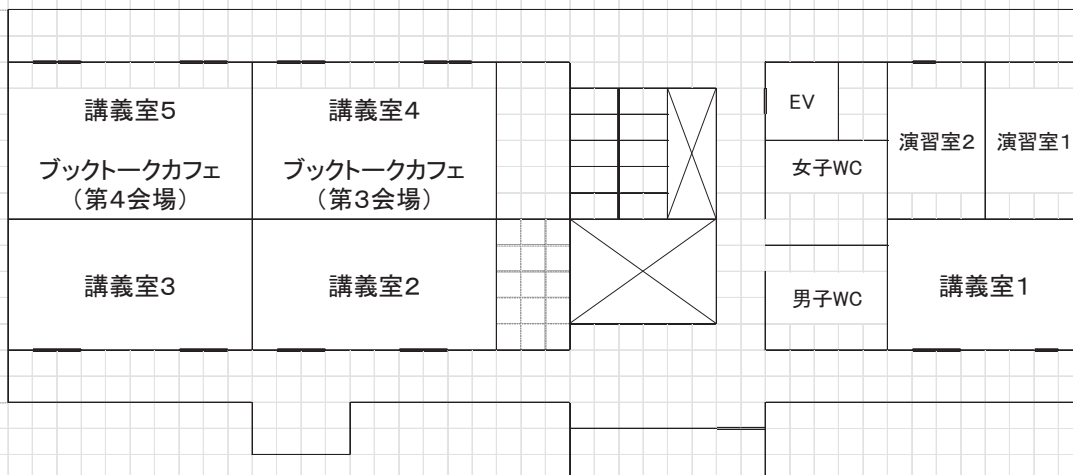
103号 第1・9分科会 課題研究Ⅰ 国際委員会企画 ラウンドテーブル	102号 書籍販売		多目的WC	ロビー 書籍販売	101号 シンポジウム 総会 研究委員会 地域連携プロジェクト
			男子WC		
		女子WC			
					棟入口

第2講義棟

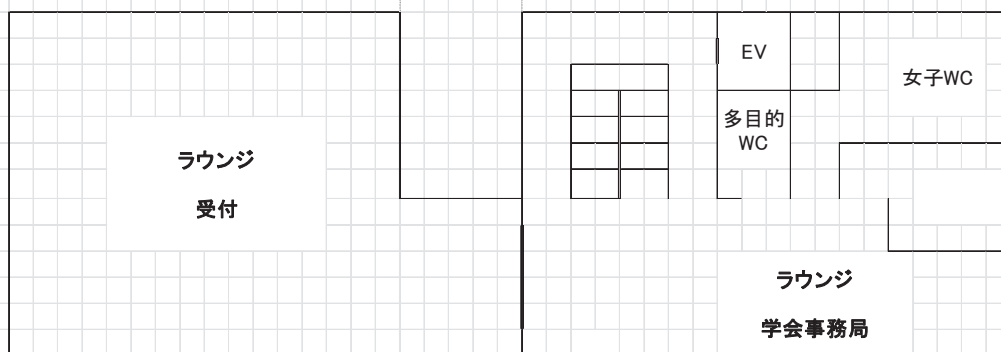
3階



2階



1階



棟入口

第1日：10月12日(土)

自由研究発表：9:00～12:10(各発表20分・質疑10分)

※10:30～10:40 休憩

【第1分科会】103号室

司会 須本 良夫(岐阜大学)・新谷 和幸(長崎大学)

- (1) 子ども自身が変化・成長を捉える社会科評価研究 ―小学6年歴史学習を事例として―
万壽本 寛之(兵庫教育大学大学院)
- (2) 問題発見能力の育成をめざす小学校社会科授業
―シミュレーション活動を取り入れた第6学年「武士の世の中へ」の実践を通して―
山本 啓太(岡山大学教職大学院)
- (3) 小学校社会科における子どもの概念形成に寄与する授業方略の検討
―ユニバーサルデザインの視点を踏まえた実践を通して―
赤木 結香(岡山大学教職大学院)
- (4) 共感の視点を踏まえ、当事者性の滋養を意識した小学校社会科授業の開発
～第3学年単元「地域課題の解決を目指した佐木島のスマート農業」を事例として～
原紺 政雄(広島大学附属三原小学校)
- (5) 見方・考え方を働かせるための小学校中学年の体験活動―2年後のアンケート実施結果の分析から―
柳沼 麻美(江戸川区立大杉第二小学校)
- (6) 小学校社会科教育における「深い学び」の実現を目指した授業改善の一考察
山口 小百合(鹿児島市立小山田小学校)

- (1) 子どもの納得解形成を支える社会科授業モデルの開発
—中学校での実践を通した納得解表出までのプロセスの解明—

松山 侑樹(岡山大学教職大学院)

- (2) 教室のディスカッションを促進する教師のストラテジー —高等学校「公共」のアクションリサーチを手がかりに—

溝口 雄介(広島大学大学院)

- (3) 社会参画意識の形成を図る中学校社会系教科の授業方略

—埼玉県上尾市立東中学校グローバルシティズンシップ科第3学年「上尾をプロデュース」を手がかりに—

峯岸 由治(関西学院大学)

- (4) よりよい政治参画に向けた政党・政策・政見放送づくりの主権者教育

—高等学校公民科における「模擬選挙プロジェクト」の授業実践から—

杉浦 光紀(東京都立新宿山吹高等学校)

- (5) 主権者教育に関わる課題整理—高校生アンケートを通して—

奥田 智(日本大学)

- (6) 主権者教育のあり方の基礎研究(3): 請願を事例にして

橋本 康弘(福井大学)

- (1) 社会科の教師・研究者にとって他教科・他分野と共有しやすい／しにくい言葉や概念とは
—教科横断的な市民育成の可能性を探る—

後藤 賢次郎(山梨大学)

- (2) 様々な立場を越えた連帯を志向する, ロールプレイ実践によって, 生徒の意識はどのように変容するか
—公民領域の単元「雇用と労働問題」における「生理休暇」を扱った包括的性教育実践として—

野呂 航平(広島大学大学院)・別木 萌果(東京都立小川高等学校)

- (3) インターセクショナルな不正義への対抗をめざす社会科(公民的分野)の単元開発:
単元「『障害女性差別』は、障害差別か?それとも女性差別か?」を事例に

和田 尚士(広島大学大学院)

- (4) 社会科授業における思考ツールとしてのトゥールミンモデルの再評価

湯本 育美(備前市立日生中学校/岡山大学大学院)

- (5) 社会科授業におけるトゥールミン図式の援用に関する一考察

吉村 功太郎(宮崎大学)

司会 金 鍾成(広島大学)・胤森 裕暢(広島経済大学)

- (1) 社会科授業の社会的意義—私の授業にはどんな意味があったのか。10年後の生徒から見た社会科の意義—
進 麻美(大分市教育センター)・角田 将士(立命館大学)・
岡 義宏(大分東明高等学校)・屋田 加菜(由布市立庄内中学校)
- (2) 日本の中学校社会科教科書コーパスを活用した社会科語彙分析(1)
深谷 圭助(中部大学)・渡部 竜也(東京学芸大学)・角田 将士(立命館大学)
- (3) カンボジアにおける新しい小学校歴史教科書モデルの内容と見開きの構成
—現行の歴史教育から何がどのように変化するのか—
守谷 富士彦(桃山学院教育大学)
- (4) 初任教师教育者は、社会科授業研究指導で何に・なぜ悩むのか
—紙芝居のアートベース・セルフスタディを通して—
小栗 優貴(京都教育大学)・守谷 富士彦(桃山学院教育大学)・
粟谷 好子(群馬大学)・石川 照子(三重大学)・草原 和博(広島大学)
- (5) 社会科教師は「社会科教師である」ことをどのように語るのか?
—経験教師のライフストーリーに表現される教職アイデンティティに着目して—
露口 幸将(広島大学大学院)
- (6) 中学校社会科教師と外部人材の協働プロセスに関する研究
—地域の課題解決を担う人材育成を目指した授業実践を事例に—
大隣 佳甫(南大隅町立根占中学校)

- (1) 近世日本の対外関係史に着目した中学歴史単元の検討ーヨーロッパ諸国との接触を中心にー

江間 史明(山形大学)

- (2) 長期的思考力を育成する中等歴史学習におけるカリキュラム・デザインの方略

ー実用主義の視点による「世界史探究」の教科書分析を手がかりにしてー

杉山 正人(兵庫県立宝塚北高等学校)

- (3) 高校歴史系科目における SLA を応用した授業実践の報告

木村 直哉(追手門学院中・高等学校)

- (4) 戦後教育改革期における「基底カリキュラム」の位置付け

ー岡山県教育委員会『社会科教育課程の基準』(1950・51年)の修正過程の検討を中心にー

大木 匡尚(開智国際大学)

- (5) 音楽を通して学ぶ価値創造型文化学習の単元開発研究

角南 葵乃助(岡山大学大学院)

- (6) 日中韓の大学院生による社会科教科書比較分析プロジェクトの成果と課題

清川 美空(岡山大学大学院)・宮本 あゆは(岡山大学大学院)・松原 心(岡山大学大学院)・

角南 葵乃助(岡山大学大学院)・池田 祐基(岡山大学大学院)・

桑原 敏典(岡山大学)・Cha Boeun(延世大学)

- (1) 社会科ドラマ教育の可能性の検討—社会を「想像」して「創造」できる市民の育成のために—
大岡 慎治(広島大学大学院)
- (2) スポーツにおける「規範的トランス言説」に対抗する社会科授業
—プライド月間での「トランス・インクルージョン」をめざした実践を事例に—
村田 一郎(大垣市立北中学校)
- (3) 仮説実験授業の「社会の科学」分野への展開
—仮説実験授業の歴史と授業記録の分析を通して—
中尾 浩章(元佐賀県公立小学校教諭)
- (4) 知的障害特別支援学校(高等部)における社会科の授業実践
田中 智樹(岐阜県立西濃高等特別支援学校)
- (5) 日本人学校における社会科授業の特質と課題—実践報告集にみる現地を対象化・事例化・問題化する社会科—
両角 遼平(福山大学)

- (1) 中学校社会科における「見方・考え方」の成長はどのように行なわれるのか
辻 常路(川西市立明峰中学校)・西川 貢平(広陵町立広陵中学校)
- (2) 総合的な学びに重点をおいた歴史カリキュラム開発—高等学校における歴史学習の諸課題から—
堀田 貴之(愛知県立碧南工科高等学校)
- (3) 古代史学習における社会的レリバンスの保障 —パブリックアーケオロジ—に基づく小学校歴史学習の構想—
紙田 路子(岡山理科大学)
- (4) 探究的に問うことができる児童生徒へ誘う小・中・高校での授業事例開発
—地元駅前商店街を対象とした小中高での自律的な探究学習—
豊 啓司(福岡教育大学)・柴田 康弘(飯塚市教育委員会)・齋藤 淳(福岡県教育庁福岡教育事務所)・
井手 司(福岡県教育庁福岡教育事務所)・木下 祥一(熊本学園大学)・坂井 清隆(福岡教育大学)・
横光 雄介(福岡教育大学附属福岡中学校)・土橋 亮太(福岡教育大学附属久留米中学校)・
福崎 泰規(福岡県立修猷館高等学校)・野田 惟仁(福岡県立東筑高等学校)
- (5) 高校世界史の教育内容開発—『メリュージヌ物語』を題材にして—
堤 敏浩(佐賀県立佐賀東高等学校)
- (6) 子どもが持つ複数のアイデンティティを考慮した相互理解教育の必要性—ポジショナリティの観点からの提言—
劉 旭(広島大学大学院)

(1)「認識的不正義の是正をめざす社会科」を、どのように開発・実践すべきか？

—A高等学校における世界史単元デザイン研究を手がかりに—

田中 峻斗(広島大学大学院・日本学術振興会特別研究員(DC2))・
植原 督詞(伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校)

(2)歴史論争問題学習における生徒の議論をいかに評価すべきか —K.バートンの評価指標の批判的検討を通して—
植原 督詞(四ツ葉学園中等教育学校 / 筑波大学大学院)

(3)日本の社会科教育学において歴史的エンパシーはどのように論じられてきたか
—歴史的エンパシーの「情意的側面」への対応に注目して—

後藤 伊吹(広島大学大学院)

(4)Historical Perspective を評価するペーパーテストの開発・実践・検証
—P. Seixas らのテストを応用した中学生への実践を通して—

神近 篤志(京都教育大学大学院)

(5)市民性教育における学習成果の評価の役割

藤本 将人(宮崎大学)

(6)学習者による学びの意味づけを踏まえた授業分析枠組みの考察
—〈関係形成〉〈理解・認識〉の実存論的考察を通じて—

大山 正博(武庫川女子大学)

昼 食: 12:10~13:20

理事会: 12:20~13:20 大会議室

社会科教師教育研究は、教師の成長にいかに関与し得るか

2010年代以降、社会科教育研究において教師を対象とする研究が注目されるようになり、今では一つの領域として地位を確立している。また、教師自身が研究を通して自らの力量形成に取り組むなど、教師教育研究の主体は学校現場にも広がっている。一方、教育現場の課題は多様化、複雑化し、それらに対応できる高度な専門性をもった教員を育てることは、教員養成・研修にとって喫緊の課題となっている。本シンポジウムでは、まず、これまでの社会科教師教育研究が、教師の成長を促すことによりどのように役立ってきたか、そして、学校現場が直面している様々な課題に対応できる教員を育てることに寄与してきたかを検証したい。そのうえで、社会科授業改善や教師の社会科授業力の向上に資するこれからの社会科教師教育研究はどうあるべきかを、参加者の皆様とともに考えたい。

シンポジウムの論点は、以下の三点となると考えている。

(1) 時代や社会が求める社会科授業ができる教員には、どのような資質・能力が期待されているのか。多様な児童・生徒の成長を支援できる教員には、何が必要か。そのための養成・研修はどのようなものか。

(2) 現在の社会科教育における教師教育研究の特質は何か。教育現場の教員の養成・採用・研修の改善にどのような示唆を与えているか。

(3) 児童・生徒とともに成長できる教師の支援という観点から、これからの社会科教師教育研究には何が求められるのか。社会科教師教育研究の課題は何か。

多様な教育課題に対応できるということの他、学習指導要領の改訂に伴う新たな教育課題への対応など、教員に求められる資質・能力は社会や時代の変化に伴って大きく変わり得る。第一の論点は、教員養成や研修のシステムは、それに見合ったものになっているのかということである。

第二の論点は、教師教育研究の成果は教師の実感や実態に合っているのか、それは、優れた資質・能力を持つ教員の養成に貢献しているのかということである。

そして、最終的には、第三の論点として示したように、上記の二つの論点をふまえた現状把握に基づいて、社会科教師教育研究のこれからの課題は何か、どのような方向を目指すべきかを議論したい。

(1) 「紛争解決」としての社会科

—法教育と交渉教育を架橋して—

小貫 篤(埼玉大学)

(2) 社会科教育研究における理論と実践の関係性を捉え直す視点

—教育工学・学習科学のアプローチを用いる歴史教育の研究者から見て—

池尻 良平(広島大学)

(3) 正統的周辺参加としての社会科教育における理論と実践の関係性

—アンラーニングからの考察—

田本 正一(山口大学)

(4) ケアの社会科教育学

—「声なき声」を聞き届けることのできる社会科教育学の理論をめざして—

岩野 清美(福岡県北九州市立板櫃中学校)

コーディネーター兼指定討論者

唐木 清志(筑波大学)

石川 照子(三重大学)

コーディネーター

溝口 和宏(鹿児島大学)

総会: 16:30~17:30 101号室

会員のみなさまは,ご参加ください。

第2日：10月13日(日)

課題研究Ⅰ：9:00～10:30 103号室

課題研究Ⅰ 実践者と研究者のコラボレーションは社会科教育研究をどのように拡張するか

社会科教育研究を行う主体として実践者と研究者という立場が存在する。「学術的実践者」や「実践的研究者」という言葉が示唆するように線引きすること自体が正しくないという考えもある一方で、実践者と研究者という立場の違いをうまく活用することで価値ある社会科教育研究を生成できるという考えもある。

実践者と研究者のコラボレーションのあり方を検討する際には、必然的に実践と理論の関係性が問われる。しかし、そもそも「理論」とは何を指しているのか。例えば規範理論、学習理論、教師理論など、理論の性質の違いでコラボレーションの在り方が異なることは想像に難くない。さらに、その実態となると、個々の状況に依存するより複雑なものである。コラボレーションのプロセスにおける様々な場面で、一定の実践/理論関係が前提とされつつもそれが拡張されたり、それまで無意識だった実践/理論関係が発見されたりするだろう。

本課題研究では、実践/理論関係が曖昧な形で含まれつつも、その関係づけに意識的、または無意識的に取り組もうとしているという側面がコラボレーションにあると考え、2名組の登壇者(形式的には研究者×実践者)に実際のコラボレーション事例を提供してもらい、実践/理論相互の関係をより積極的に作り出す可能性について議論したい。

ひとまずの論点として次の3つを設定する。①コラボレーションを進めるための動機やその条件とはどのようなものなのか?②コラボレーションを進める中でどのような飛躍やつまづきが存在するのか?③コラボレーションの成果はどのように語られるべきで、我々はどのように聞くべきなのか?

これらの論点に沿って、登壇者にそれぞれご発表いただいた上で、そこにおける実践(者)と研究(者)の関係について、指定討論者を中心にフロアの方々と議論を進めていく。それによって、社会科教育に関する追求に寄与し得る実践/理論関係を作り出したり、維持したりするコラボレーションの要点が浮かび上がってくることをめざす。

(1) 当事者研究としての社会科教育研究

—言葉にならない苦勞の言語化と理論化—

鬼塚 拓(宮崎市立宮崎中学校)・藤本 将人(宮崎大学)

(2) デザイン研究におけるコラボレーションは社会科教育研究をどのように拡張するか

—高校生への市民性教育実践を振り返る相互インタビューを事例に—

小栗 優貴(京都教育大学)・望月 翔平(兵庫県立兵庫高等学校)

(3) 「実践者-研究者」関係・役割再考

—「実践者」どうしの「協働」は研究や実践にいかなる影響を与えるか—

須郷 一史(東京都立江戸川高等学校)・吉原 大貴(東京都立高島高等学校)

コーディネーター兼指定討論者

星 瑞希(北海道教育大学)

コーディネーター

福井 駿(鹿児島大学)

課題研究Ⅱ 教師教育において社会科教育学の理論と実践はどのような関係を持つか

社会科教育学研究は、これまでに多くの社会科教育の授業理論やそれに基づく実践を生み出し、それぞれの妥当性を議論することで進められてきた。そこには、社会科教育学の理論と実践についての研究を積み重ね、アップデートしていくことで、教師の社会科授業がより洗練されていくという暗黙の前提があったように思える。しかし、実際の教育現場において社会科教育学の理論と実践それぞれがどのように関係し、作用しているのかを考慮すると、その接続のあり方には疑問が残る。そこには、社会科教育学の理論と実践の議論がなぜ重要であり、それぞれの枠組みをいかに構築・省察させていくかについての現実的な課題が存在する。また、教員養成での学びが入職後どのように生かされ、あるいは「洗い流され」るのか。そのような教師に対して社会科教育学が貢献できることは何なのか考えることも重要であろう。そうした状況を踏まえると、研究者としてだけでなく、教師教育者として社会科教育学の理論と実践の関係を捉え直す必要があるのではなかろうか。

本課題研究では、広く社会科教育学を取り巻く理論と実践の関係性を捉えなおすための教師教育の在り方について、学部教員養成、教職大学院、教員研修の立場から議論するために、論点として次の3つを設定し、検討する。

- ① それぞれの教師教育の場において社会科教育学の理論と実践との関係をいかに捉えているか？
- ② それぞれの教師教育の場において社会科教育学の理論と実践をどのように接続しようとしているのか？
- ③ それぞれの教師教育の場において社会科教育学の理論と実践に関する課題は何か？

上記の論点に沿って登壇者にはそれぞれの立場からご発表いただく。発表者・指定討論者間だけでなく、社会科教育学を教える／学んでいる多様な参加者と課題を共有し、改善のあり方について議論していくことで、教師教育における社会科教育学の理論と実践はどのような関係を持つかについて社会科教育研究上の展望を開くことをめざす。

(1) 学部教員養成において社会科教育学の理論と実践はどのような関係を持つか

—主体的なカリキュラム調整者を育成する教員養成の在り方—

紙田 路子(岡山理科大学)

(2) 教職大学院において社会科教育学の理論と実践はどのような関係を持つか

—教師教育者としての自己の立ち位置を問う—

真島 聖子(愛知教育大学)

(3) 教員研修において社会科教育学の理論と実践はどのような関係を持つか

—ノンフォーマルな場を中心とした入職期社会科教師の支援に注目して—

大坂 遊(周南公立大学)

コーディネーター兼指定討論者
コーディネーター

山内 敏男(兵庫教育大学)
岩崎 圭祐(鹿児島大学)

課題研究Ⅲ 社会科教育史研究において理論と実践はどのように語られてきたのか

本課題研究のテーマは「社会科教育史研究において理論と実践はどのように語られてきたのか」である。社会科教育史を紐解くと、これまで多様な優れた理論と実践が誕生してきたことがわかる。特に初期社会科の理論と実践は、社会科教育界において指標であり続けてきた。代表的な理論としてコア・カリキュラムや問題解決学習、実践として単元「福岡駅」や奈良プランがそれぞれ挙げられる。

初期社会科に限らず、戦前・戦後・外国の理論と実践に関する社会科教育史研究は数多く行われてきた。他方、それぞれの研究領域を包括するような枠組みが提示されてきたとは言い難い。このような背景を踏まえ、本課題研究は各領域を包括するための試みとして、議論を進める。改めて歴史的研究の動向をレビューし、新たな方法論を模索することは、社会科教育史研究の継承と発展につながる。

本課題研究では、論点として次の3つを設定する。

- ①社会科教育史研究の対象として特定の理論と実践を選択した動機は何か。
- ②対象となる理論と実践に関する先行研究の意義と位置づけは何か。
- ③対象となる理論と実践に関する研究領域の成果と課題は何か。

上記の論点に沿って、登壇者にはそれぞれの立場からご発表いただく。指定討論者との問答をもとに、論点を整理しながらフロアの方々と検討していきたい。検討した内容を踏まえ、社会科教育史研究の今後の展望を開くことをめざす。

(1) 戦前の社会科教育史研究の文脈でどのように語られてきたのか

—地理教育の理論と実践を事例として—

福田 喜彦(兵庫教育大学)

(2) 戦後の社会科教育史の文脈で理論と実践はどのように語られてきたのか

—戦後の郷土教育の理論と実践を事例として—

白井 克尚(愛知東邦大学)

(3) 外国の社会科教育史研究の文脈で理論と実践はどのように語られてきたか

—米国社会科教育の理論と実践を事例として—

渡邊 大貴(大分大学)

コーディネーター兼指定討論者

永田 忠道(広島大学)

コーディネーター

大野木 俊文(鹿児島大学)

ブックトークカフェ(第1会場): 8:30~9:20 講義室 B

『メイキング・シティズン:多様性を志向した市民的学習への変革』

川口 広美(広島大学)・福井 駿(鹿児島大学)・

野呂 航平(広島大学大学院)・山本 亮介(広島大学大学院)・

池田 祐基(岡山大学大学院)

ブックトークカフェ(第2会場): 8:30~9:20 講義室 C

『高校地歴・公民科 国際平和を探究するカリキュラム 一国連を超えて』

野島 大輔(立命館大学)

ブックトークカフェ(第3会場): 8:30~9:20 講義室 4

『子どもの社会的思考力・判断力の発達と授業開発—歴史的分野を中心として—』

加藤 寿朗(島根大学)・梅津 正美(鳴門教育大学)

ブックトークカフェ(第4会場): 8:30~9:20 講義室 5

『子どもがつながる社会科の展開~地域・世界と共に~』

『グローバル社会における解釈型歴史学習の可能性』

白井 克尚(愛知東邦大学)

昼 食: 11:40~12:40

若手のランチミーティング: 11:40~12:40

詳細は、参加申し込みをされた方にお伝えします。

自由研究発表：12:50～14:20(各発表20分・質疑10分)

【第9分科会】103号室

司会 吉村 功太郎(宮崎大学)

(1) 公民科教師は、なんのために、なにを、どのように(政治的)自己開示をしているか？

—日本の教室空間の再政治化を目指して—

吉田 純太郎(広島大学大学院/日本学術振興会特別研究員 DC)

(2) 実践的意思決定力育成を目指した授業における学習者の認識変容に関わる研究

—高等学校公民科における単元開発を通して—

松原 心(岡山大学大学院)

(3) 社会科を専門とする小学校教師は自身の社会科観をどのように実現しようとするのか

—1年間の社会科授業実践の省察をめぐるセルフスタディを通して—

川向 雄大(尼崎市立園和小学校)・片山 元裕(お茶の水女子大学附属小学校)

(1) 正統的周辺参加論に依拠した中学校社会科学習評価の開発

～ラーニング・パートナーとの対話を通じた市民としての相互構成をめざして～

野田 英樹(佐賀大学)

(2) オーストラリアの社会系教科におけるアイデンティティの複数性と複層性

～ナショナル・カリキュラム「公民とシティズンシップ」を手がかりに～

両角 遼平(福山大学)

(3) 高等学校公民科「公共」における「社会的な見方・考え方」に着目した授業の開発

～プラトン『ポリティコス(政治家)』を教材とした授業実践と考察を中心に～

佐藤 克宣(北海道高等学校「倫理」「公共」研究会／北海道札幌南高等学校)

(1) 生徒は歴史総合を通して「近代化」をどのようにとらえたのか—生徒の記述分析を中心に—

須郷 一史(東京都立江戸川高等学校)

(2) 「困難な歴史」に関する高校日本史授業の開発—江戸時代の公娼制度を事例に—

真島 聖子(愛知教育大学/筑波大学大学院)・

青山 昌平(愛知教育大学附属高等学校/愛知教育大学教職大学院)

(3) 学校歴史教育は困難な歴史を展示している博物館をどのように活用できるか—広島平和記念資料館を事例に—

金 鍾成(広島大学)・山本 亮介(広島大学大学院)・野呂 航平(広島大学大学院)・

後藤 伊吹(広島大学大学院)・和田 尚士(広島大学大学院)

・劉 旭(広島大学大学院)・田中 峻斗(広島大学大学院)

- (1) 学校現場の指導教諭としてどのように教師を育てるのか
—教職大学院生, 初任者の伴奏・伴走者としての役割と課題—

岩淵 公輔(府中市立府中第四中学校)

- (2) 児童の思考力・判断力の発達を促す社会科授業デザインに関する研究 ～防災単元を事例として～

安達 和哉(鳥取県境港市立境小学校)・加藤 寿朗(島根大学)・
石飛 彰太(島根県松江市立義務教育学校玉湯学園)・伊東 孝之(島根大学教育学部附属義務教育学校)・
門脇 元子(島根県松江市立法吉小学校)・藤原 良平(島根県松江市立乃木小学校)

- (3) 子どもの主体的な学びの姿を育てる社会科授業のあり方—教材開発と学習集団づくりを通して—

恒川 徹(東京学芸大学附属竹早小学校)

(1) 人工知能時代の地理・歴史の実存的学び:世界と自己の相互形成に向けて

佐長 健司(福岡女子短期大学)

(2) 通史授業の歴史から現代の関連ニュースを検索できる AI アプリが高校生の日常生活の認知行動に与える影響の
分析 -系統的な通史授業と現代のテーマ学習を両立させるカリキュラム・デザインに向けて-

池尻 良平(広島大学)・吉川 遼(愛知淑徳大学)・澄川 靖信(拓殖大学)

(1)「普通の人びと」の意思決定を吟味するホロコースト学習の単元開発

清川 美空(岡山大学大学院)

(2)手続的概念を重視した歴史教育カリキュラムの正当化の戦略:イングランドCHATAプロジェクトの場合

玉井 慎也(北海道教育大学釧路校)

(3)メタ認知を見取るルーブリックの開発実践研究-単元「戦後史」を事例に-

金子 遥(中野区立明和中学校)・弘田 真基(京都市立久世中学校)

(1) 小学校社会科教師は他教科での市民育成をどのように捉えているか
ーイメージマップを通した市民育成に関する調査(2)ー

藤森 啓太(北杜市立長坂小学校)

(2) 社会参加を促すまちづくり学習の序章～ふるさと歴史探究の考察～

山下 正範(広島市立五日市小学校)

(3) 市民性の育成を目指した小学校法教育単元開発ー販売の仕事の法的側面に焦点を当ててー

宮本 あゆは(岡山大学大学院)

研究委員会地域連携プロジェクト: 14:30~16:00 103号室

詳細は、学会 HP をご参照ください。

国際委員会企画ラウンドテーブル: 14:30~16:00 204号室

詳細は、学会 HP をご参照ください。

鹿児島大学へのアクセス



市電

- 「工学部前電停」下車
(徒歩 約5分)

JR

- 指宿枕崎線「郡元駅」下車
(徒歩 約12分)

市営バス

- 9 番線(武岡・鴨池港線)
- 11 番線(鴨池・冷水線)
- 18 番線(大学病院線)
- 20 番線(緑ヶ丘・鴨池港線)
「鹿大教育学部前」下車
(徒歩 約1分)

鹿児島交通バス

- (鹿児島中央駅経由)
19 番線(紫原・桜ヶ丘団地線)
「鹿大教育学部前」下車
(徒歩 約1分)

鹿児島交通バス

- (鹿児島中央駅経由)
30 番線「鹿大教育学部前」下車
(徒歩 約1分)